

グループ活動紹介

神奈川県品質工学研究会における活動

神奈川県品質工学研究会
熊谷 保昭

Group
Activities

1. はじめに

神奈川県に在住/在勤の品質工学会の理事を中心に会員が集まって、2011年7月から研究会活動を開始した。勉強会よりは、研究会としての性格を強く打ち出して活動することを方針としている。世話人は以下の3名で、現在の会員数は17名である。

会長：中島建夫 幹事：吉澤正孝，近岡淳

2. 神奈川県品質工学研究会の狙いと活動

研究会という名が体を表す活動となるよう、参加者の品質工学研究の深化と拡大、および参加者の知の成長を狙い、次の3項目を中心に活動している。

- ① 新しい品質工学の探究・ 技術戦略，組織展開などの田口玄一の考えの中で，具体化の遅れていると思われる分野を発展させる。
- ② 品質工学の古典を読む・ 田口の論説集などの古典的な田口玄一の論説を深読みし，原点に立ち返って，品質工学の根底を探る。
- ③ 事例による研究……… 参加者から発表された新規事例の報告，あるいは学会誌などで発表された事例の論考について討議する。既存手法の単なる適用や学習ではなく，事例から新しい価値を発見する。

3. 現在の主な活動

上記3項目の活動を活動内容と据えているが，現状では会員が積極的に事例を提示することが多く，「①新しい品質工学の探究」および「③事例による

研究」が中心的な活動である。春と秋の研究大会に発表する事例，社内の実践事例などさまざまな事例に対して討議を行う場と捉え，提案された事例の課題について忌憚なき意見を交換し，研究会は建設的な場となっている。学会の発表会と比べ時間的に余裕があること，会員が持ち込む絞った事例を検討することにより，かなり丁寧に突っ込んだ議論が交わされる。それぞれが持ち込む事例は会員が実施している具体例なので，田口が具体例について議論すると主張していたことを実践する場になっている。

「②品質工学の古典を読む」については，田口から長年指導を受けた会員が田口の言説を事例の意見交換に取り入れて適切に話しているのだから，古典を読む前に田口の哲学の大枠を理解することができる。

4. 活動方法

月例会として活動は毎月第3もしくは第4の土曜日9：00～12：00に，会場は横浜市あざみ野駅至近（アートフォーラムあざみ野等）の会議室などを借用している。会費は会場代を賄う程度に徴収しており，年間5,000円程度で，積立金が不足した時に徴収する仕組みである。研究会をよりよい場とするために，会員の入会資格には次のことが求められる。①品質工学に関心が強い。②討議材料として自己の事例や論考などを発表することが適宜できる。③ポジティブで建設的な意見で対話ができる。④自宅から日帰り参加が可能な範囲で，神奈川近郊に在住ないし勤務している。最終的には世話人の面接を受けて上記事項を確認してから入会となる。

進め方は，報告者が順番に自己の事例や論考をプ